

2017年1月7日  
(於：神戸芸術センター)

## SLiT-J ユーザーコミュニティ発足式挨拶

SLiT-J ユーザーコミュニティ準備委員会  
会長 河村純一

ただ今、御紹介いただきました SLiT-JUC 設立準備委員会の河村でございます。  
皆様には SLiT-J ユーザーコミュニティ発足式に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。準備委員会を代表して一言、御礼を申し上げます。

まず、本会の設立の経緯について私から簡単に御説明させていただきます。  
皆様御存知のように、我が国は、1970年代に世界初の放射光専用リングが稼働して以来、放射光利用では世界最先端の地位にありましたが、ほぼ20年前の Spring-8 以降は、中大型規模の放射光施設は建設されておらず、今日の激しい国際競争の中では学術のみならず産業振興の面でも厳しい状況に陥りつつあります。

そうした中で、放射光学会をはじめとする皆様方の御尽力により、新たな放射光施設建設への提言がいくつかなされて参りました。その中で2011年12月に、東北大学・多元物質科学研究所の元所長、早稲田(わせだ)先生を中心に、東北地方国立7大学の研究者によりまとめられた「東日本中型高輝度放射光施設計画」構想が文部科学省に提出されました。

その後、2013年8月に東北大学・電子光理学研究センターの濱広幸(はま・ひろゆき)先生を中心に、最初の3GeV高輝度光源計画が策定され、また翌年の3月には日本学術会議第22期の大型研究計画「マスタープラン2014」の重点計画として「3GeVクラスの中型高輝度放射光施設」が採択されました。

光源計画はその後、2度改定されて、2014年7月からはプロジェクト名を SLiT-J (Synchrotron Light in Tohoku, Japan) に統一することにしました。最新版は、16年の5月に「東北放射光施設推進会議・推進室 SLiT-J デザインチーム」により策定された「3GeV高輝度光源加速器システム提案書」であります。これは2016年6月にアメリカ・スタンフォード大学の Jerome Hastings (ジェローム・ヘイスティングス) 教授を委員長とする国際評価委員会において、計画の科学技術的妥当性やインパクト、建設計画、予算計画、ランニングコストの妥当性などについて評価して頂きました。結果は、SLiT-J のホームページからダウンロードできますのでご覧になった方も多いかと思いますが、概ね高い評価で、リング設計は、信頼性の高い運転を可能とするものであり、特に産業活用に対する厳しい要望を満たすことができるとの評価をいただきました。

またこの国際評価の中で、SLiT-J のビームラインの建設については、  
・SLiT-J で可能になる、技術、熟練ビームラインサイエンティスト、ビームラインアクセス・モード等の明示をすること  
が求められており、またエンドステーションについては、  
・エンドステーションデザインコンペに基づく、潜在的なユーザーコミュニティのすべての参加  
が求められました。

当準備委員会は、この提言に先立って、2016年の1月から光源を利用した利用分野検討ワークショップの会合を開くなどの活動を行ってきましたが、提言を受けてからは、それに基づいて、まずエンドステーション・デザインコンペの開催への協力、それからコンペに参加した皆様への入会の呼びかけなどを行ってきました。

活動開始が遅くなり、本日の発足式を迎えるまでに2ヶ月弱の会員募集しか行っていませんが、それでも順調に会員数が伸びまして1月5日時点で123名の会員が集まっております。会員の分布は、東北大からの参加者が多いのですが、それでも全体の2割以下で、残りの8割は北海道から九州まで広い範囲に渡っております。また参加者の母体ですが、大学関係が63.4%と、半数を超えますが、国公立の研究所関係が18.7%、民間企業が13.8%となっていて、まだ施設が無いにもかかわらず、民間企業の方も含め、非常に多く皆様から関心を頂いており、SLiT-Jへの期待の大きさが分かります。

今後、計画の進展とともに、会員の皆様には本会を十分に活用いただきまして、ユーザーの利用しやすい、新しい放射光施設を作り上げていただければ、と祈念いたしております。皆様のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。